

「足ひれ」自在 世界大会へ

北小路さん「メダルで恩返し」

エジプト・カイロで25日から開かれるフィンスイミングのマスターズ世界選手権大会に、愛川町の派遣社員北小路優子さん(59)が日本代表として出場する。介護施設で働きながら練習に励むなか、財団の渡航費用の支援を受けて出場が実現し、北小路さんは「仕事との両立は大変だけれど、多くの支えがあつて競技を続けられる。恩返しのためにもメダルを獲得したい」と意気込む。

(石塚柚奈)

フィンスイミング マスターズ代表

北小路さんが「足ひれ」をつけて泳ぐフィンスイミングと出会ったのは16年ほど前。スクールの募集を見て、イルカのような泳ぎ方を身につけて「海で一緒に泳ぎたい」と40歳代で始めた。競泳の経験もなかったが、「道具を使えば、自分も自在に泳げる」とのめり込んだ。

介護施設で派遣社員として週4日フルタイムで勤務



メダルの獲得を目指す北小路さん(横浜市都筑区)

しながら、仕事の合間を縫って往復2時間以上かけて横浜国際プール(横浜市都筑区)に通っている。筋肉量や柔軟性がタイムに影響するとして、勤務後はジムでもトレーニングを積むといい、「何とか粘り強く続けていく」と笑う。

これまで国内大会のほか、2012年に豪州で開催された世界選手権大会にも出場。ただ、14年にイタリ

アで開催されたワールドカップ(W杯)マスターズは渡航費が用意できずに、出場できなかった。

世界大会出場への思いが募るなか、登録する派遣会社ウイロブ・ワーク(東京都新宿区)が、夢に挑む派遣社員を応援する財団を運営し、助成金支給などで支援していることを2年前に知った。1度目の応募でも選出されたが、世界大会

出場はかなわず、22年9月に始まった2度目の選考で再び対象に選ばれた。「代表になれなかったら」とのプレッシャーもあったが、3月のジャパンオープンマスターズ大会の55〜59歳部門で、世界大会出場権を獲得した。

カイロで開催される大会には、財団から渡航費など50万円ほどの支給を受けて計4種目に出場する。介護施設も、休暇の取得に理解を示してくれた。「財団の存在を知って跳び上がる思いだった。職場の仲間も応援してくれる」と話し、11年ぶりの世界大会に向けて「自己ベストを更新したい。メダルを目指して楽しむ」と力を込める。